

調査・統計 NOW

景気 (GDPと日銀短観)

実質GDP(全国)及び日銀短観(全国、九州・沖縄の業況判断DI)



(資料) 内閣府、日本銀行 本店、日本銀行 福岡支店

～実質GDPは9四半期ぶりにマイナス成長～

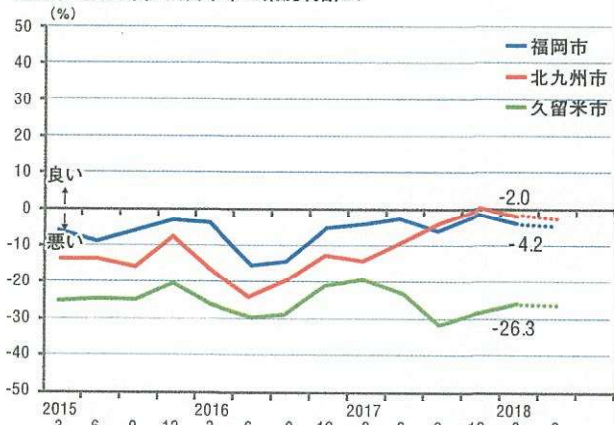
■2018年1～3月期の実質GDP(2次速報値)は534兆円で前期比0.2%減、年率換算で0.6%減となり、9四半期ぶりにマイナスとなりました。個人消費や設備投資、住宅投資が振るわず、内需が勢いを欠き、輸出の伸びも鈍化しました。

～全国の景況感は8四半期ぶりの悪化、九州・沖縄は3四半期連続の悪化～

■2018年6月の日銀短観の業況判断DI(全産業)は、前回3月調査に比べて、全国は1ポイント悪化(17→16)、九州・沖縄も1ポイント悪化(20→19)となりました。3か月先の見通しは、全国は3ポイント悪化(16→13)、九州・沖縄は変わらず(19→19)となりました。

景況(福岡市・北九州市・久留米市)

福岡市・北九州市・久留米市の業況判断DI



(資料) 福岡商工会議所、北九州商工会議所、久留米商工会議所

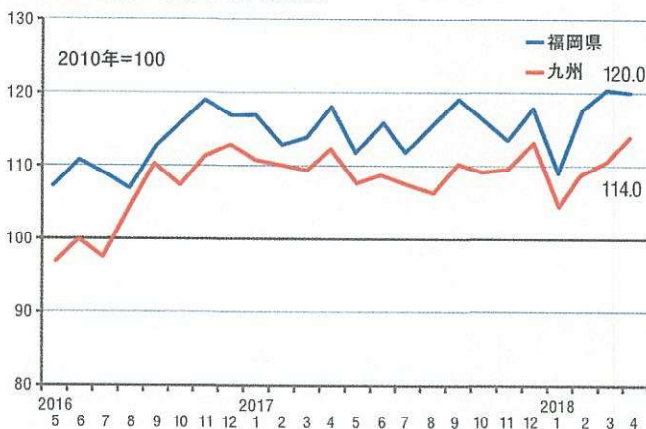
～福岡市、北九州市は悪化、久留米市は改善～

■2018年1～3月期の福岡県主要3都市における地場企業の業況判断DIは、前期に比べて、福岡市は2.7ポイント悪化(▲1.5→▲4.2)、北九州市は2.0ポイント悪化(0→▲2.0)、久留米市は2.1ポイント改善(▲28.4→▲26.3)となりました。

■翌四半期(2018年4～6月期)の予測業況判断DIは前期に比べて、福岡市は0.5ポイント悪化(▲4.2→▲4.7)、北九州市は1.0ポイント悪化(▲2.0→▲3.0)、久留米市は変わらず(▲26.3→▲26.3)の見込みとなっています。

生産

鉱工業生産指数の推移(九州・福岡県)



(資料) 福岡県、九州経済産業局

～福岡県の実産は3か月ぶりの低下～

■2018年4月の福岡県の鉱工業生産指数(季節調整値)は120.0となり前月比で3か月ぶりの低下となりました。内訳として、輸送機械工業、鉄鋼業、電子部品・デバイス工業等が増加しましたが、金属製品工業、食料品・たばこ工業等が減少しました。

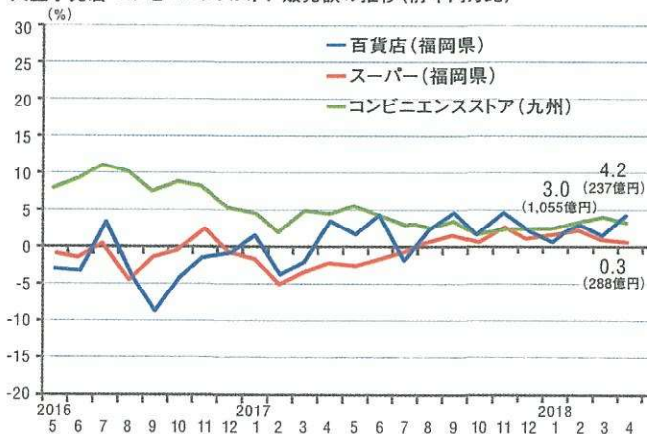
～九州の実産は2か月連続で上昇～

■2018年4月の九州の鉱工業生産指数は114.0となり、前年同月比で2か月連続の増加となりました。食料品工業、非鉄金属工業等が減少しましたが、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業等が増加しました。

調査・統計 NOW

個人消費 (大型小売店、コンビニエンスストア)

大型小売店・コンビニエンスストア販売額の推移 (前年同月比)



(資料) 九州経済産業局

～百貨店、スーパーともに9か月連続の増加～

■2018年4月の福岡県の大型小売店販売額は、百貨店が237億円(前年同月比4.2%増)、スーパーが288億円(同0.3%増)となりました。百貨店は、身の回り品、飲食料品等の動きが良く、売上が増加しました。スーパーは、化粧品、医薬品等の売上が増加しました。

～コンビニは79か月連続の増加～

■2018年4月の九州のコンビニエンスストア販売額は1,055億円(前年同月比3.0%増)となりました。ファーストフードや調理パン等の惣菜等が好調であり売上が増加しています。

個人消費(乗用車新車登録台数)

福岡県の新車登録台数推移



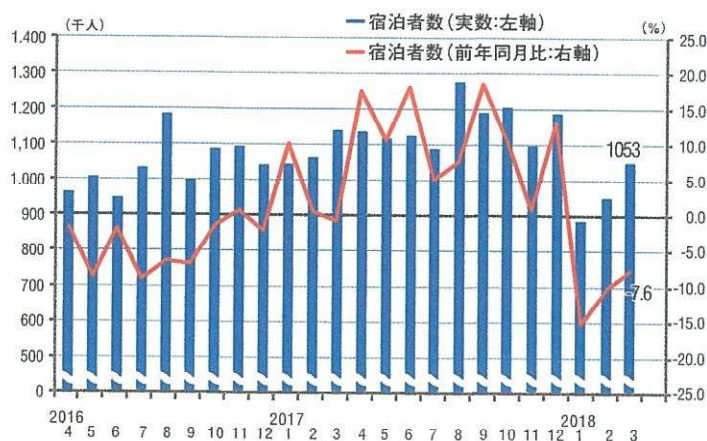
(資料) 福岡県

～普通車・小型乗用車は、5か月連続の減少、軽自動車は2か月ぶりの減少～

■2018年5月の福岡県における新車登録台数は、普通・小型自動車は7,975台(前年同月比2.9%減)軽自動車は4,497台(同0.5%減)となりました。

宿泊者数

福岡県の宿泊者数推移



(資料) 観光庁「宿泊旅行統計調査」

～日本人宿泊者数は3か月連続の減少・外国人宿泊者数は3か月ぶりの増加～

■2018年3月の福岡県の実宿泊者数は105万3,110人(前年同月比7.6%減)となりました。日本人、外国人別でみると、日本人宿泊者数は86万4,290人(同11.2%減)、外国人宿泊者数は18万8,820人(同13.3%増)となりました。前年同月に比べて日本人宿泊者数は3か月連続の減少、外国人宿泊者数は2か月ぶりの増加となりました。

長期金利

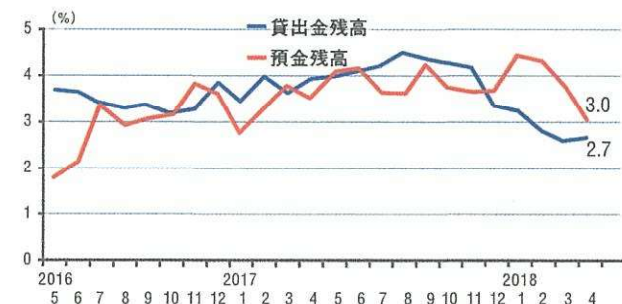
新発10年国債利回り(長期金利:月末終値)の推移



(資料)財務省、米連邦準備制度理事会

預貸金

福岡県の預金、貸出金の推移(前年同月比)



(資料)日本銀行福岡支店、JA福岡信連

(注)預金残高、貸出金残高は国内銀行及び農業協同組合の合計

企業倒産

倒産件数・負債総額(福岡県)



(資料)東京商工リサーチ

～日本の長期金利は2か月ぶりの上昇～

■2018年6月29日の日本の新発10年国債利回りは5月31日に比べて0.001%上昇し、0.040%となりました。依然として日銀のイールドカーブコントロールによって日本の長期金利は低水準で推移しています。

～米国の長期金利は2か月ぶりの上昇～

■2018年6月29日の米国の新発10年国債利回りは5月31日に比べて0.008%上昇の2.856%となりました。6月12～13日に開催された米連邦公開市場委員会(FOMC)は予想通り政策金利を0.25%引き上げました。同委員会は政策金利の見通しについて、今年の利上げ予想を年3回から4回に上方修正しました。

～貸出金、預金ともに増加～

■2018年4月の福岡県の貸出金残高は、前年同月比2.7%増の19兆3,963億円(5,024億円増)となりました。不動産業向け貸出が堅調に推移しており、法人・個人ともに増加しています。

■2018年4月の福岡県の預金残高は、前年同月比3.0%増の25兆9,749億円(7,673億円増)となり、法人・個人ともに増加しました。マイナス金利の影響により、依然として定期性預金の伸びは不調であるものの、流動性預金が堅調に推移しています。

～倒産件数、負債総額ともに減少～

■2018年5月の福岡県における倒産件数は33件(前年同月比1件減)、負債総額は23億2,200万円(同27億6,500万円減、54.4%減)となりました。産業別の倒産件数は、建設業(3→7件)が増加し、製造業(3→2件)、卸売業(6→4件)等が減少しました。また地区別の倒産件数は、福岡地区19件(前年同月比3件減)、北九州地区9件(同3件増)、筑後地区5件(同1件減)となりました。負債総額は小売業(10.3億→4.8億円)、卸売業(12.2億→2.6億円)、建設業(10.3億→1.8億円)などの業種で減少しています。